

沖縄をクルーズ観光の拠点に！

「沖縄におけるクルーズ観光活性化方策検討委員会」(第三回委員会)開催

Point

沖縄には独特の自然・歴史・文化といった魅力的な観光資源があります。また、観光はリーディング産業として沖縄には欠かせないものとなっています。当委員会では、沖縄の地域振興のためのクルーズ観光活性化方策を検討してきました。11月10日(金)の第一回、12月15日(金)の第二回委員会に続き、今年度の取りまとめの第三回委員会を2月9日(金)に開催しました。

沖縄総合事務局では、観光がリーディング産業になっている沖縄で、自然(海・山)・歴史・文化といった魅力ある観光資源を活かしたクルーズ観光を活性化するため「沖縄におけるクルーズ観光活性化方策検討委員会」を立ち上げ、検討してきました。

・入国審査の迅速化、両替や観光案内の充実等のポータルサービスの強化

作成する沖縄の港湾における新たな長期構想にも施策を反映させていく予定です。

クルーズ旅行の普及のための情報発信、県民のホスピタリティ向上

・クルーズ旅行の普及のための情報発信、県民のホスピタリティ向上

ポートセールの強化等

・ポートセールの強化等

沖縄は国内外からクルーズ船が多数寄港するなど、クルーズの目的地として人気があることは間違いなく、今年度台湾からの定期クルーズ船が休止したり、港に旅客船専用のターミナルがないため貨物の横をクルーズ客が移動するといったマイナス面もあります。

また、沖縄におけるクルーズ観光の将来イメージとして、

・日本の船社による沖縄クルーズの拡大

・沖縄 東アジアクルーズの拡大

・沖縄でのアイランドホッピングの実現(イメージ図参照)を提案しました。

・沖縄でのアイランドホッピングの実現(イメージ図参照)を提案しました。

本委員会では、沖縄におけるクルーズの現状や問題点について議論し、

・クルーズの現状や問題点について議論し、

・旅客船ターミナルの整備

・旅客船ターミナルの整備



沖縄アイランドホッピングのイメージ

※アイランドホッピングとは

島々を船で移動しながら島内観光やマリンスポーツを楽しむ船旅。カリブ海やタヒチでのクルーズが有名。

委員会メンバー

	氏 名	所 属	職 名
委員長	小 濱 哲	名桜大学大学院	教 授
委 員	安 藤 徹 哉	琉球大学工学部	助 教 授
委 員	石 原 悦 子	カラーシンフォニー	代 表
委 員	米 須 清 秀	(財)沖縄観光コンベンションビューロー	事務局長
委 員	東 良 和	(株)ビジネスランド	代表取締役社長
委 員	淵 辺 美 紀	沖縄ツーリスト(株)	代表取締役社長
委 員	松 田 美 貴	(有)沖縄シブスエージェンシー	会 長



那覇港に寄港した「サファイアプリンセス」(右)